

# AFTERNOON TEA

## 温度を追求する日々

熊本大学生命科学研究部環境分析科学講座

加塩麻紀子

熊本大学生命科学研究部（薬学部）の加塩麻紀子と申します。鳥取大学の檜山武史先生からバトンを受け取りました。檜山先生とは、私が大学院生～ポストドク時に愛知県岡崎市の生理学研究所で細胞生理研究部門（富永真琴教授）に在籍していた時に、斜め向かいに檜山先生の所属する研究室（基礎生物学研究所・統合神経生物学研究部門）があった縁で、長い間大変お世話になっております。当時、富永教授が代表を務めていらっしゃる特定領域研究「セルセンサーの分子連関とモーダルシフト」の班会議で訪れた沖縄にて、富永教授、檜山先生と私の3人でレンタカー移動するといった貴重な時間を過ごしたことも非常に懐かしく感じられます（檜山先生の本田美奈子愛を知ったのもその時でした）。その後、私は生理学研究所にて学位を取得後、京都府立医科大学・細胞生理学（丸中良典教授）、愛知医科大学・生理学講座（増淵悟教授）を経て、2021年にもう一度生理学研究所に戻ったのち、2024年4月より熊本大学で新しく研究室（細胞生理学研究室）を立ち上げることとなりました。熊本大学でのポストを獲得することが出来たのも、檜山先生から頂戴した目から鱗のアドバイスによるところが多く、感謝してもしきれません。熊本大学でも、大学院時からの興味対象である温度感受性 TRP チャンネルの機能、特に体温下での機能調節機構、まだ明らかにされていない生理機能を明らかにするべく、研究を継続していきたいと思っております。熊本大学に移って2か月、まだまだ力不足を実感させられることが多いですが、これまでお世話になってきた方々の大恩に報いるよう、良い研究と後進の育成に努めていきたいと思っております。

さて、過去の Afternoon tea を拝見しますと、留

学先でのご経験やご趣味に関するものなど、皆様とても興味深いお話を書かれています。自他ともに認める無趣味な私ですが、大好きなものと温泉です。スーパー銭湯も大好きで、普段も日ごろの疲れを癒しに頻繁に通っています。常日頃より次の異動先に希望する条件として、温泉と美味しいお魚があるところ！と言ってきた私にとって、熊本という土地は願ってもない場所です。九州本土と橋でつながる諸島の天草は、魚介が豊富に取れることで有名です。また熊本に関して特筆すべきは、やはり豊富な温泉です。北はザ・温泉街といった雰囲気でもし風呂を特徴とする杖立温泉、洗練された雰囲気がいまや有名すぎる黒川温泉、阿蘇の広大な風景も魅力で多様な泉質が楽しめる阿蘇内牧温泉、南は湯治湯としても親しまれている湯の鶴温泉、挙げればきりがありません。さらに県内のこれらの温泉すべてが、車で片道1時間半程度でアクセス可能というのも、なんとも魅力的です。この原稿を書いていてすっかり温泉気分になってしまいましたので、来週末は日帰り温泉旅行としようと思います。仕事では「温度感受性 TRP チャンネルの研究」に邁進し、週末は「温泉」につかって癒される日々を存分に満喫したいと思っております。

最後に、出来立ての当研究室では大学院生を募集しておりますので、温度感受性 TRP チャンネル研究にご興味がある方はお気軽に連絡ください（mkashio@kumamoto-u.ac.jp）。また、温泉巡りをしたいというお知り合いの先生方も、いつでもお越しください。色々と開拓しておきます。

## めざせ Physiolo. マスター

名古屋市立大学大学院医学研究科細胞生理学分野  
中森 裕之

鹿児島大学の内藤清惟先生からバトンを受け取りました。名古屋市立大学医学研究科細胞生理学分野の中森裕之と申します。内藤先生は大学院時代の先輩で、岐阜大学の獣医生理学研究室で一緒に脊髄排便中枢の研究をしていました。1つ上で唯一の院生の先輩だったので、多くのご指導を受け、なんとか研究の道を進む力をつけることができるようになったので、大変感謝しております。

さて、生理学に絡められる私の趣味といえはポケモンかなと思うので、そのお話にお付き合いください。オーストラリアの Nick Spencer 教授の研究室には息子さん描いたであろうレックウザが飾っており、ポケモンの国際性には頭が上がりません。第100回の生理学会では当時の石川理事長がポケモンの進化についてお話しになりました。あのキングドラを見て、雨パすいすいCSぶっぱ眼鏡ドロポンを想起した聴衆はそんなにいないはず。キングドラの育成について詳しく説明すると、この紙面では足りないのだからポケモン対戦考察wikiで調べていただけたらと思います。そんなポケモン好きなのですが、ゲームをし始めるとハマって生活に影響を及ぼすので妻からゲーム禁止令が出ております。ポケモンGO!ですらダウンロードさせてくれませんでした。なので、ポケモンは老後の楽しみに取っており、30年後もポケモンが続いていることを願いながら、YouTubeとwikiでポケモン対戦の勉強をしています。今は、育てるのは我が子と学生と病態モデルラットだけに留めようと思っています。

執筆当時の話題といえは、第101回大会の開催地福岡で起きた教員の願書出し忘れ問題です。この報道を見て、ふと自分のことを振り返ると、当初の志望先がその人のベストな道とは限らないな



娘が描いたポケモンたち

とつくづく感じます。私は岐阜大学で志水泰武教授、椎名貴彦准教授（当時）の指導のもと、大腸運動の研究をしていたので、ご縁あって橋谷光教授のもとで大腸運動の研究を続けることができております。しかし、もともと大腸の研究がしたかったわけではなく、もう片方の冬眠研究に興味がありました。もう一人の同級生も冬眠志望だったので大腸の道に進みました。また、獣医生理の先生方にはお話しですが、そもそも志望研究室4つ（他は食品環境衛生学、微生物学、臨床放射線学）のうちの1つが生理学で、どれかに入れればよいなと思っていたら獣医生理に所属することになりました。もっと遡ると、浪人初期は北大獣医を目指しており、10月くらいに無理だと感じて岐大志望に変更しました。もし頭が良くて北海道大学に行ったら、もし他3つの研究室に所属していたら、もし冬眠の研究をすることになっていたら、おそらくこのアフタヌーンティーは執筆していないことでしょう。今思えばこの選択が私のベストな道

なのですが、当初はせっかくだから楽しもうくらいの気持ちでその道に進んでいました。第一志望を受けられなかった福岡の生徒たちも、これからどんな友人に、どんな恩師に、どんな発見に出会えるかまだわかりませんし、今の自分では思いも

よらない新しい道に進むかもしれません。なので、いつもいつでもうまくゆくなんで保証はどこにもないけどいつでもいつもホンキで生きてると、何事も好転するのではないかと願っております。



## 新秋田生活

秋田大学大学院医学系研究科細胞生理学講座

三木 崇史

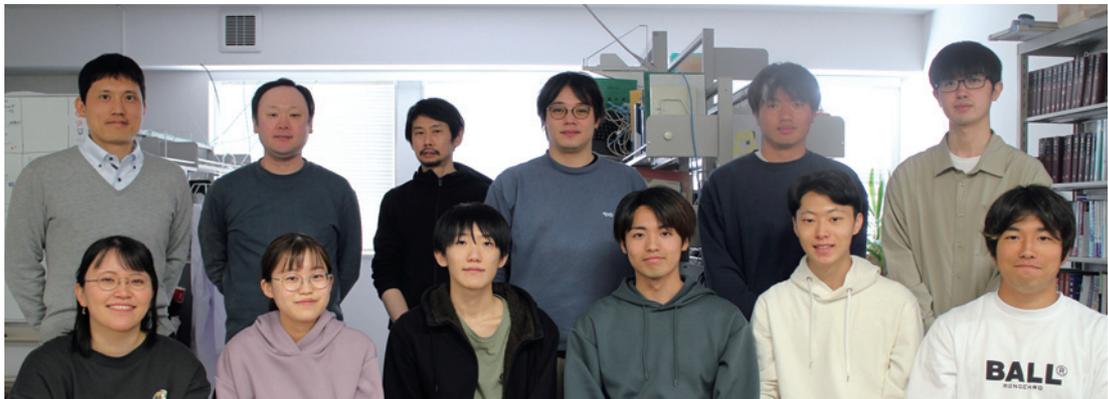
私は、2023年5月より秋田大学大学院医学系研究科細胞生理学講座で教授を務めさせていただいております三木崇史と申します。今回は、沖縄科学技術大学院大学の江口工学さんよりご紹介いただきました。江口さんとは私が高橋智幸先生のラボでポスドクをしていた時に一緒に、それ以来仲良くさせてもらっています。今回は、Afternoon teaへの執筆依頼をいただき、大変嬉しく思っております。というのも、生理学会に所属して以来、この生理学会誌のAfternoon teaを毎回楽しみに読んでおり、そのゆったりとした内容が私の心のオアシスになっているからです。そういった背景もあり、いざ自分が書くとなると内容に迷ってしまいましたが、今回は気楽に近況について書いてみようと思います。

まずは、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は、学部生時代は京都大学工学部工業化学科という化学を専門とする学部所属しておりました。化学や物理は多少勉強したのですが（試験直前ですが、）、少し生物学にも触れてみたいという出来心で、学部4年生の卒業研究では合成・生物化学専攻生物化学講座を選びました。しかし、大学時代のほとんどの時間を学外活動（部活（ラクロス）、麻雀）に費やしていたため、学科の情報に疎く、研究室の教授が前年度に退職されていたことを知りませんでした。4年生の初めての半年は酵母を使った分子生物学研究を行っていましたが、夏以降は新任教授として異動して来ら

れた森泰生先生のもとで電位依存性カルシウムチャンネルに関する研究を行いました。当時有機化学の分野では分子マシンと呼ばれる人工の機能性分子が着目されていましたが（2016年ノーベル化学賞）、このような人工分子に比べて生体分子であるイオンチャンネルは圧倒的に精巧でかつ多機能であることに感銘をうけ、そのまま修士、博士課程へと進学し学位を取得いたしました。その後、生体分子がどのように働き生理的機能を実現しているかに興味を抱き、同志社大学の高橋智幸先生の研究室でシナプス生理学の研究をスタートし、パリ第五大学（現パリ大学）のAlain Marty先生、そして同志社大学大学院脳科学研究科の坂場武史先生のもとでシナプス伝達の分子機能に関連に関する研究を行って参りました。ここ秋田大学では、シナプス生理学の新たな展開を目指した研究に取り組むとともに、医学教育にも力を注いでまいりたいと思っております。

さて、簡単にといった自己紹介を長々と書いてしまいましたので、研究の話は少し脇に置いて、昨年より移り住んだ秋田について書いてみようと思います。

秋田に来てはじめて衝撃をうけたのは、やはりご飯が圧倒的に美味しいということでした。水分が多くて柔らかめのご飯を好んで食べていた私にとって、秋田のお米（あきたこまち）は粒がしっかりしていて噛めば噛むほど美味しさが広がり感銘をうけました。しかも、粒がしっかりしている



現在の研究室の集合写真（2列目左端が著者）

ためつぶれず、冷めてもおいしいのでおにぎりに最適です。ピクニックやBBQに持っていくと明らかに美味しさが違います。2023年10月にはサキホコレという新種が発表され、秋田のお米の良い所を集めたようなお米になっています（日本穀物検定協会の食味ランキングで特A評価獲得）。是非ご賞味あれ。

また、意外と知られていないのが果物です。秋田は、果物の産地で有名な青森と山形に挟まれていますので果物を栽培する気候に適しており、リンゴ（全国6位）やサクランボ（全国4位）も豊富です。スーパーでは秋田産の果物が安く手に入り、とても美味しいです（ラズベリーは全国1位）。秋田県の北にある鹿角市では「北限の桃」が有名です。去年、北限の桃を求めて車で片道2時間かけて鹿角市の市場まで買いに行ったのですが、既に売り切れており、それでも手を尽くしてその辺りで栽培された桃を購入して帰りました。とても美味しい桃でした。ただ、帰ってきてから立ち寄っ

た秋田市内のスーパーに北限の桃が売っていて、思わず膝から崩れ落ちそうになりました。

お米や果物だけでなく、お酒、お魚（特にヒラメが美味しい）も抜群で、なぜ日本の中であまり知られていないのか不思議です。全国的に目立つ特産品は少ないのですが、質の高いものを地産地消する贅沢な町だと思います。

その他にも、日本一深い湖の田沢湖、ジオパークが有名な男鹿半島、夏は竿燈まつり、大曲の全国花火競技会など、見どころが目白押しです。

気付けば秋田観光大使の気分ですが、今後も秋田の良い所を見つけては皆様に発信していけたらと思っています。秋田にお立ち寄りされる際にはぜひご一報ください。

地方から日本の生理学や科学の発展に貢献できるような研究を発信できるよう精進してまいりたいと思っています。皆様には今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。